

2021年8月2日

脳卒中急性期治療をされている患者さんへ
【脳卒中発症後急性期の患者に対してHAL 腰タイプを用いたリハビリテーション治療の有用性】
へのご協力のお願い

社会医療法人宏潤会 大同病院、だいでうクリニック リハビリテーション科では「脳卒中発症後急性期の患者に対して HAL 腰タイプを用いたリハビリテーション治療の有用性」という臨床研究を行っております。この研究は、脳卒中発症後急性期のリハビリテーション治療に、装着型サイボーグ Hybrid Assistive Limb® (HAL®) 腰タイプを用いた急性期リハビリテーション治療の標準化を目的としています。そのため、85歳以下で脳卒中発症後48時間以内に入院され、かつ発症後1週間以内に訓練が開始できる患者さんのカルテ等の治療データ/検体（血液、糞便）を使用させていただきます。

以下の内容を確認してください。

- この調査研究は社会医療法人宏潤会大同病院倫理審査委員会で審査され、院長の承認を受けて行われます。研究期間は以下のとおりです。

2021年8月2日 ~ 2025年3月31日まで

- 今回の調査研究の対象は、85歳以下で脳卒中発症後48時間以内に入院され、かつ発症後1週間以内に訓練が開始できる患者さんのカルテ等の治療データ、検体（血液、糞便）です。
 - 通常治療時で検査する際に追加で血液を採取します。通常診療とは別に、糞便を採取、超音波検査を行います。検査にかかる費用は、研究責任者が所属する名古屋市立大学リハビリテーション科から支払われますので、患者さんの負担はありません。また、データを使用させていただいた患者さんへの謝礼等もありません。
 - 使用するデータは、個人が特定されないよう匿名化を行い、個人情報に関しては厳重に管理します。
 - 調査研究の成果は、学会や科学専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人を特定するような情報が公表されることはなく、個人情報は守られます。
 - 調査研究の結果、特許などの知的財産が生じる可能性もございますが、その権利は社会医療法人宏潤会 大同病院、だいでうクリニックに帰属し、あなたには帰属しません。
 - この調査研究は、名古屋市立大学リハビリテーション科の研究費で行っており、特定の企業・団体等からの支援を受けて行われるものではなく、利益相反状態にはありません。
- もし、今回のデータ使用について同意をいただけない場合には、いつでも構いませんので、お手数ですが下記の問い合わせ先まで連絡ください。
- また、同意の有無が今後の治療などに影響することはございません。

【問い合わせ先】

社会医療法人宏潤会 大同病院、だいでうクリニック リハビリテーション科 部長
研究責任者：小林 尚史
TEL：052-611-6261(代)

この調査研究は、今後の医療の発展に資するものですので、
ご理解ご協力の程、何卒、よろしくお願いいたします。

